006

令和７年度　浜松医科大学

医学科：学校推薦型選抜・海外教育プログラム特別入試

小論文 問題冊子（学校推薦型選抜）
小論文Ⅰ問題冊子（海外教育プログラム特別入試）

令和７年２月１日（土）実施

注意事項

１．問題冊子は，試験開始の合図があるまで開いてはいけない。

２．問題に不鮮明な箇所等の印刷上のミスがあった場合には，試験監督者に申し出ること。

３．解答用紙及び下書き用紙には，必ず受験番号を記入すること。

４．下書き用紙は持ち帰らないこと。

５．問題冊子は持ち帰ること。

次の文章を読み，以下の問いに答えなさい。

1978年，世界初の体外受精（*in vitro* fertilization：IVF）児であるルイーズ・ブラウンが誕生し，生殖医療に革命が起きました。この技術は自然妊娠が難しいカップルにとって希望の光となり，不妊治療の選択肢を大きく広げました。しかし，IVF技術を開発したロバート・エドワーズがノーベル生理学・医学賞を受賞した際に，ローマ・カトリック教会が否定的な反応を示したことは広く知られています。IVFは現在，代表的な生殖補助技術の一つとなっていますが，その健康リスクについてはいまだ完全には解明されていません。また，問題は健康リスクにとどまりません。

IVFのプロセスでは複数の胚を作るため，使用されなかった胚（余剰胚）が発生します。次のような架空の事例を考えてみましょう。

> 不妊治療を受けているAさん夫妻は，体外で卵子と精子を受精させ，5つの胚を作製しました。1つを移植し，無事に妊娠しましたが，将来的にもう一人子どもを持つことを考慮し，残りの胚を凍結保存します。数年後，夫妻は子どもを持たない決断をしますが，保存コストが増す中で，これまで凍結保温してきた胚をどうするか悩んでいます。<u>選択肢としては，廃棄，不妊治療中のカップルへの提供，研究への提供，凍結保存の継続の4つがあります</u>。

出典：澤井　努『応用倫理学入門［第4回］生殖医療の倫理(1)―体外受精，着床前診断，代理出産』医学界新聞（2024年11月12日，第3567号），9頁

問　あなたがAさんと同様の状況におかれたとき，下線部の4つの選択肢のなかからどれを選ぶか。1つを選び，その選択によって起こりうる倫理的問題を複数挙げ，それに対するあなたの考えを，合わせて800字以内で述べなさい。